

1 現行方針の評価を踏まえた主な課題

課題1 文化芸術に触れられる機会の提供

- 文化芸術の鑑賞や体験は、豊かな「創造力・想像力」の育成に大きな効果があることから、子ども・若者 が文化芸術に触れられる機会の確保が求められている。
- インクルーシブな社会の実現に向けて、性別、年齢、障害の有無、国籍、経済的な状況、居住する地域等にかかわらず、誰もが気軽に自分らしく文化芸術に触れられる場が求められている。
- デジタル鑑賞を行う方が増加傾向にあることから、オンラインやAR、デジタルアーカイブなどデジタル技術を活用した文化芸術活動への対応が求められている。
- 文化芸術活動に取り組む環境が整っていると考える県民は約4割に留まり、また地域により割合に差が見られることから、県民誰もが様々な文化芸術に触れられる機会を確保するとともに、地域間の格差を解消するような取組が求められている。

課題2 持続的な文化芸術活動を支援するしくみと担い手の育成

- 文化芸術の創り手や継承者の裾野を広げるため、持続的な活動を支援するしくみと県民等の文化芸術に対する意識醸成や理解促進に向けた取組が求められている。
- 県民が文化芸術をより身近に感じられるよう、引き続き文化芸術をつなぎ支える人材の育成・確保に努めるとともに、それらの人材が幅広く活躍できる社会を形成することが求められている。

課題3 文化への関心・理解の向上

- 地域で受け継がれてきた文化財や食文化をはじめとした生活文化等の継承に引き続き取り組むとともに、それらの価値の適切な継承に配慮しつつ、保存と活用の好循環を生み出すことが求められている。
- 文化芸術が持つ多様な価値を生かした地域づくりや経済の活性化をさらに推進するため、引き続き文化芸術を観光や福祉等の他分野と連携させた取組の実施が求められている。

2 基本方針の策定にあたって重要となる視点

方針全体について

- 滋賀が目指す将来の姿、基本目標（5年後）
- 文化振興施策の柱および重点施策
- 方針期間
- 評価指標

策定にあたって重要な視点

- 誰もが文化芸術に親しめる環境づくり（高齢者、障害者、外国人、子ども・若者、子育て中の保護者、ビジネスパーソン 等）【課題1】
- デジタル化の急速な進展による新しい表現や鑑賞方法への対応【課題1】
- 急速な少子高齢化に伴う文化の担い手減少への対応【課題2】
- 伝統文化や暮らしに根付く文化の魅力の再認識（衣食住等の生活文化、滋賀の美の魅力発信）【課題2】
- 文化芸術の新たな価値の創出（観光、産業、福祉、教育等との連携による社会課題への対応）【課題3】
- 滋賀ならではの文化的資産の海外展開【課題3】
- 地域文化の拠点として文化施設がもつ役割【課題3】
- 「文化と経済」「文化財の保存と活用」の好循環【課題3】

滋賀県文化振興基本方針（第4次）の策定について

策定に向けたスケジュール（案）

時期	審議内容等
令和7年 (2025年) 3月	文化審議会（諮問・スケジュール確認・課題検討）
令和7年 (2025年) 5月	文化審議会（骨子案・評価指標検討）
令和7年 (2025年) 7月	文化審議会（素案検討）
令和7年 (2025年) 11月	文化審議会（答申案検討・県民政策コメント実施結果報告）
令和7年 (2025年) 12月	会長から知事へ答申
令和8年 (2026年) 3月	滋賀県文化振興基本方針（第4次）策定

- 第1回 重点検討事項部会開催（4～5月）
実施方針の検討
- ヒアリング先への意見照会（5～6月）
- 第2回 重点検討事項部会開催（5～6月）
重点検討事項の取りまとめ・施策の検討
- 第3回 重点検討事項部会開催（6～7月）
基本方針への反映
- 県民政策コメント実施（10～11月）

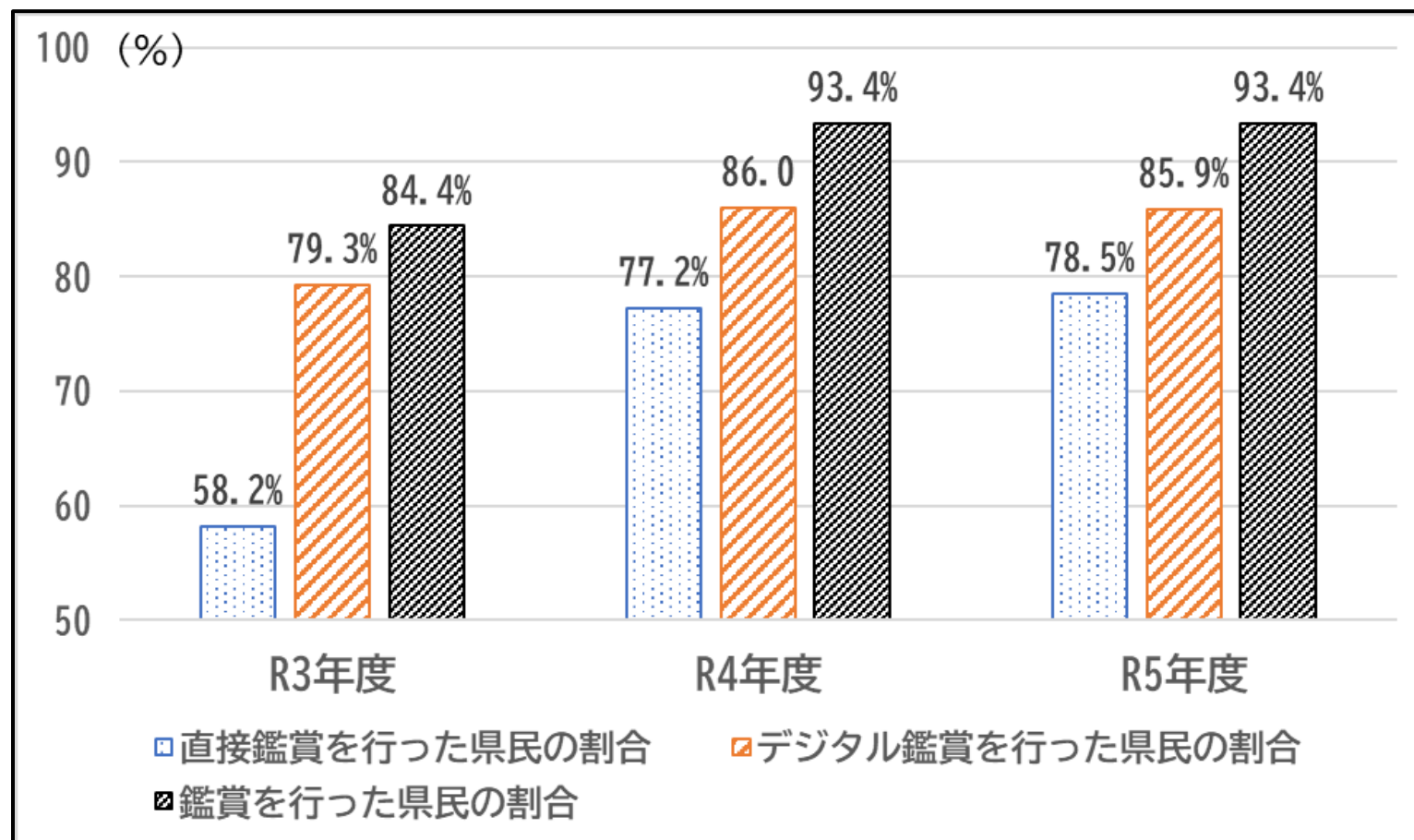
柱1 文化芸術に触れられる機会の提供

- 1 文化芸術鑑賞について
- 2 文化芸術に取り組むことができる環境について

1 文化芸術鑑賞について

- ・ 直接鑑賞を行った割合の増加
- ・ デジタル鑑賞の一般化の継続

「①1年間に文化芸術を鑑賞したことがある県民の割合」(年度別・鑑賞方法別)



(参考) 県政モニターアンケート 有効回答数:256人

①県政モニターの年代別人数

～20歳代…17人、30歳代…34人、40歳代…43人、50歳代…49人、60歳代…53人、70歳代～…60人

②県政モニターの地域別人数

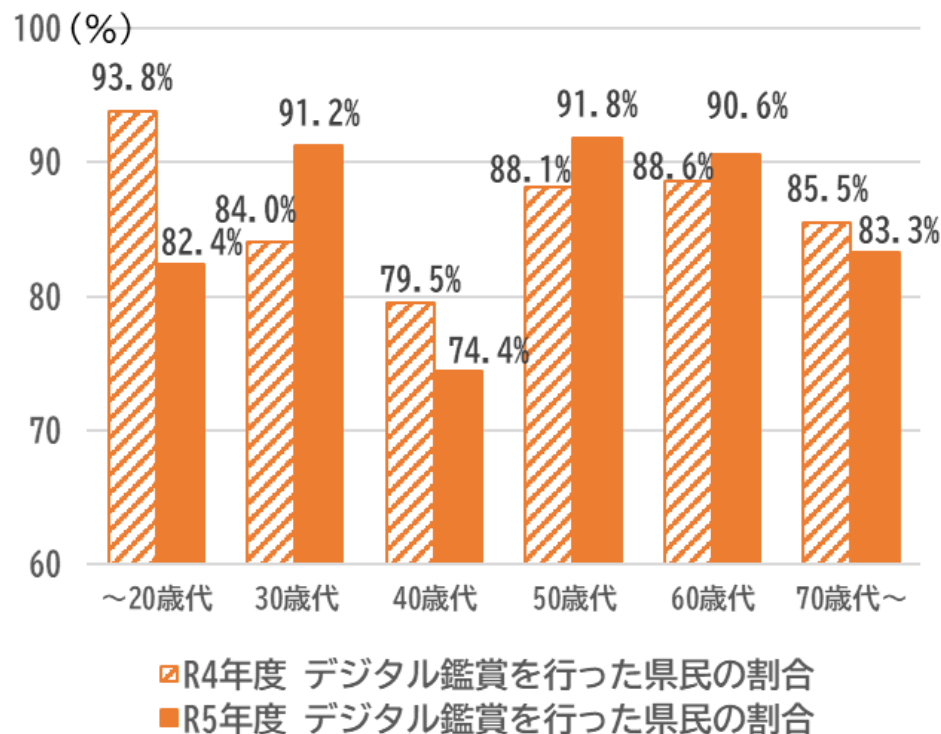
大津…60人、湖南…65人、甲賀…28人、東近江…40人、湖東…25人、湖北…28人、湖西…10人

1 文化芸術鑑賞について

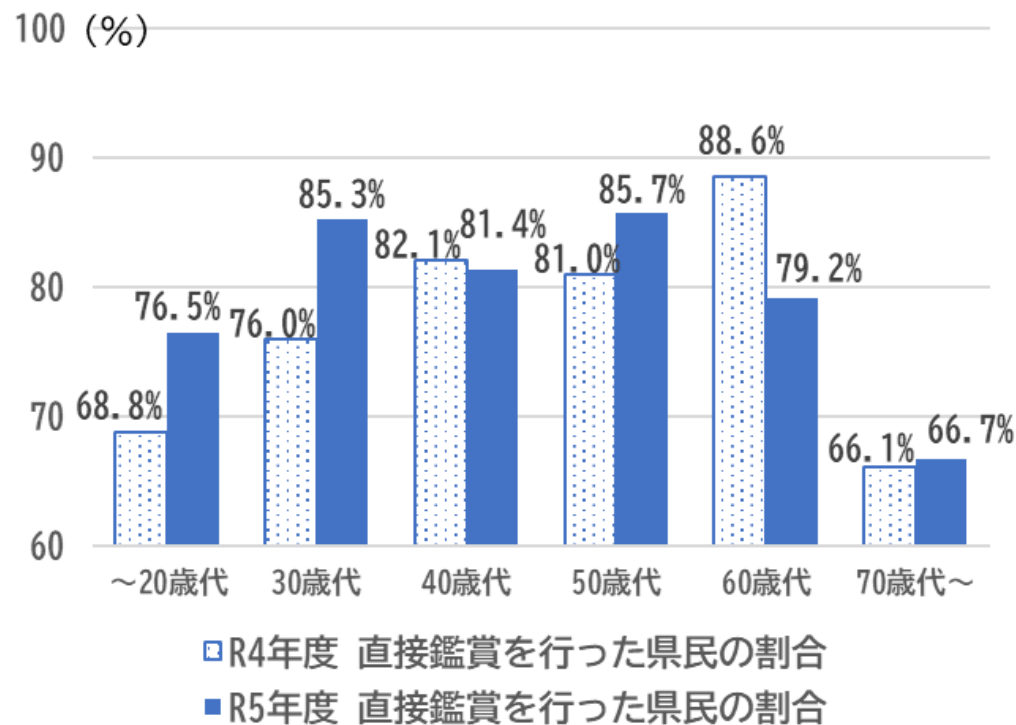
・ほとんどの世代で直接鑑賞よりもデジタル鑑賞が多い

「①1年間に文化芸術を鑑賞したことがある県民の割合」(年代別・鑑賞方法別)

デジタル鑑賞を行った県民の割合



直接鑑賞を行った県民の割合



(参考) 県政モニターアンケート 有効回答数:256人

①県政モニターの年代別人数

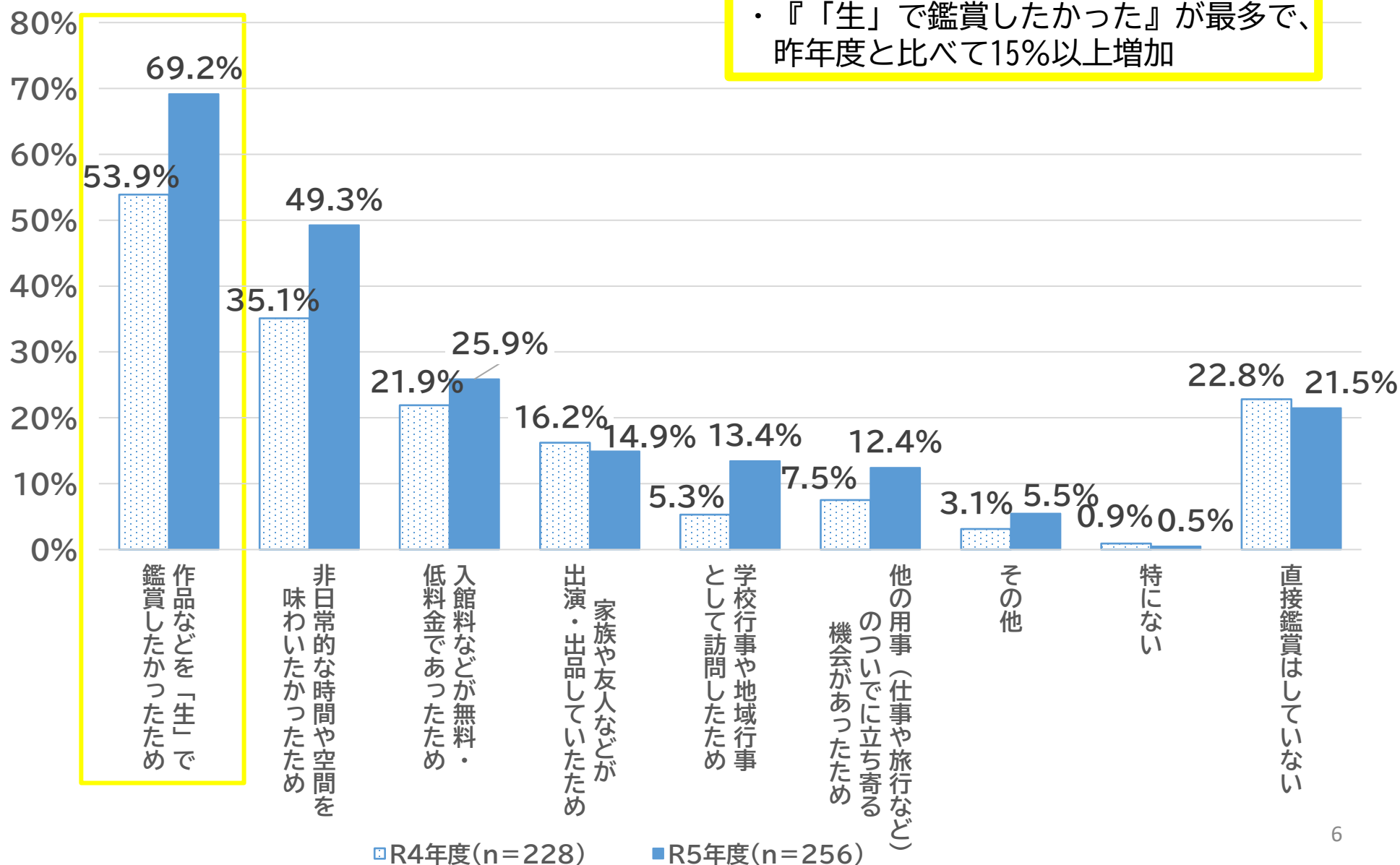
~20歳代…17人、30歳代…34人、40歳代…43人、50歳代…49人、60歳代…53人、70歳代…60人

②県政モニターの地域別人数

大津…60人、湖南…65人、甲賀…28人、東近江…40人、湖東…25人、湖北…28人、湖西…10人

1 文化芸術鑑賞について

直接鑑賞をした理由別の割合(評価指標①関連)※複数回答可

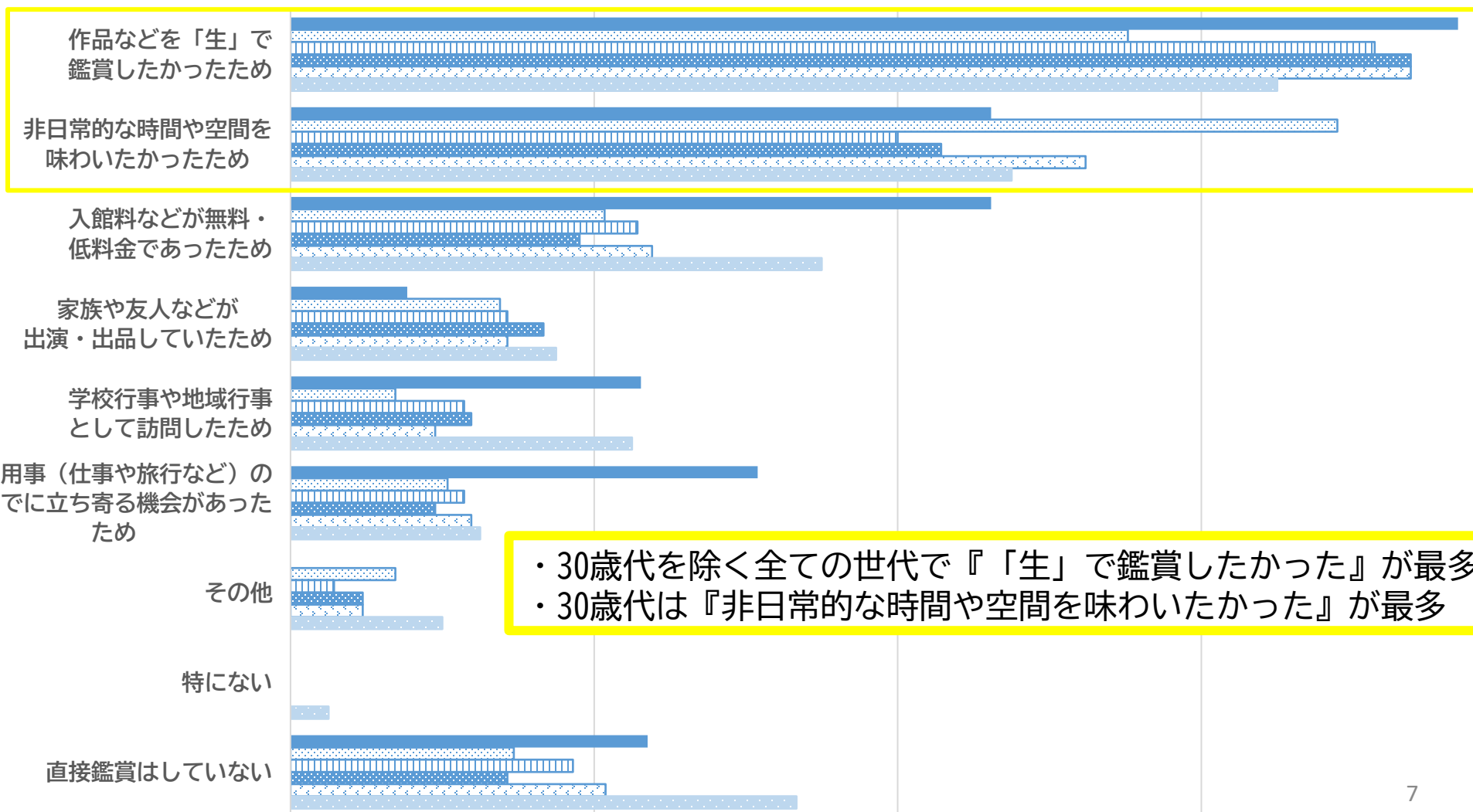


1 文化芸術鑑賞について

直接鑑賞をした理由別の割合(評価指標①関連)(年代別) ※複数回答可

■ ~20歳代 (n=17) ■ 30歳代 (n=34) ■ 40歳代 (n=43) ■ 50歳代 (n=49) ■ 60歳代 (n=53) ■ 70歳代~ (n=60)

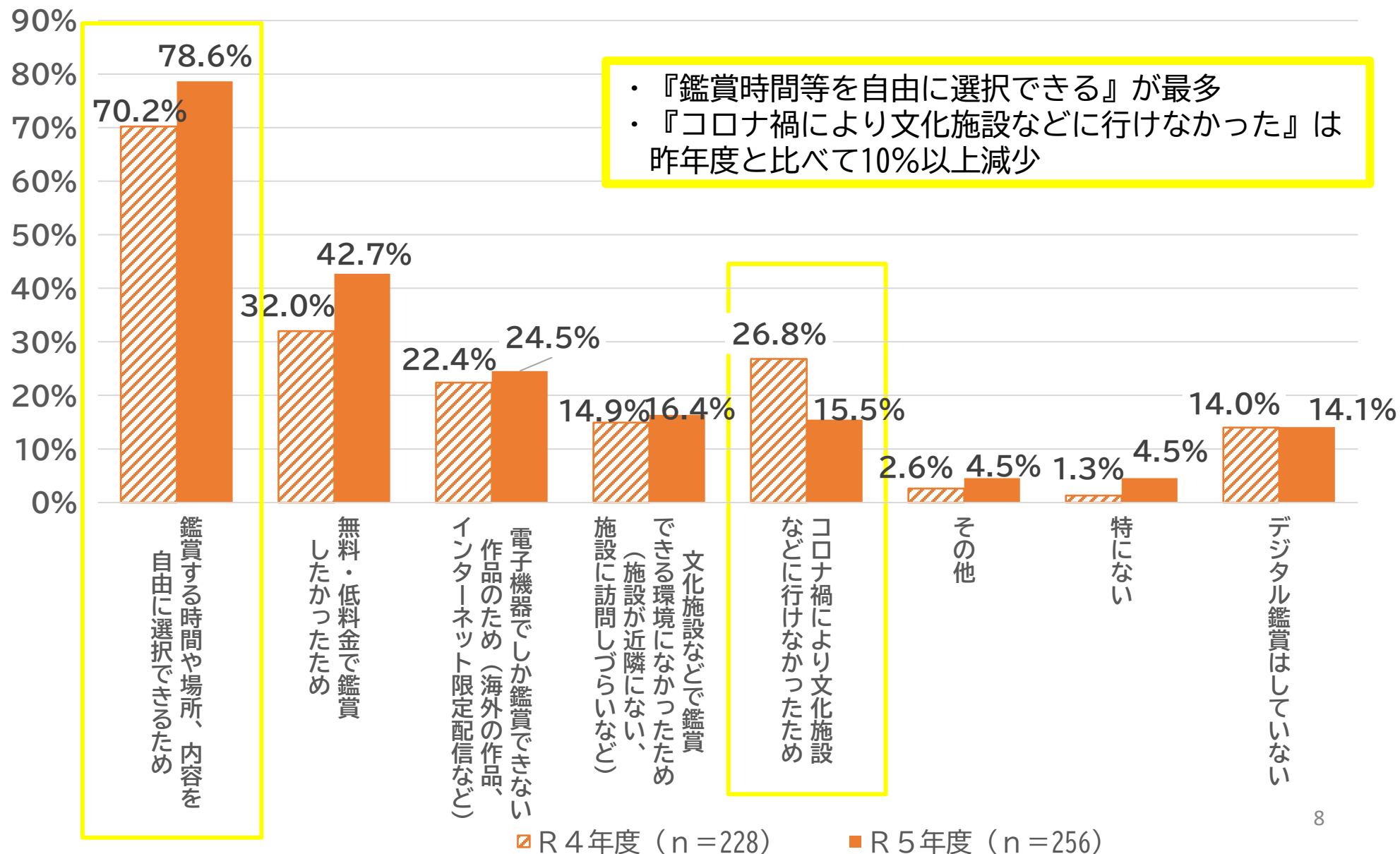
0% 20% 40% 60% 80%



・ 30歳代を除く全ての世代で『「生」で鑑賞したかった』が最多
 ・ 30歳代は『非日常的な時間や空間を味わいたかった』が最多

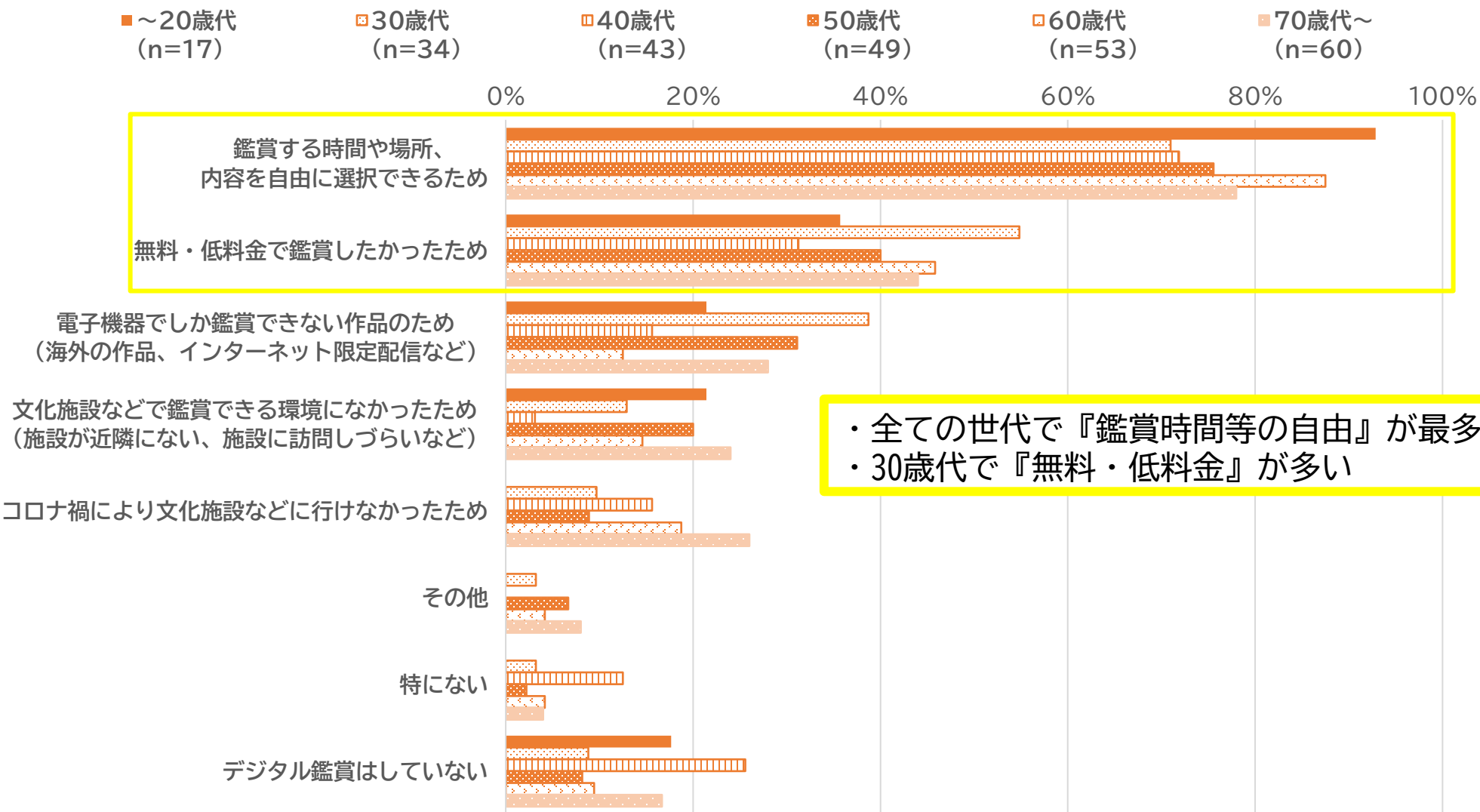
1 文化芸術鑑賞について

デジタル鑑賞をした理由別の割合(評価指標①関連)※複数回答可



1 文化芸術鑑賞について

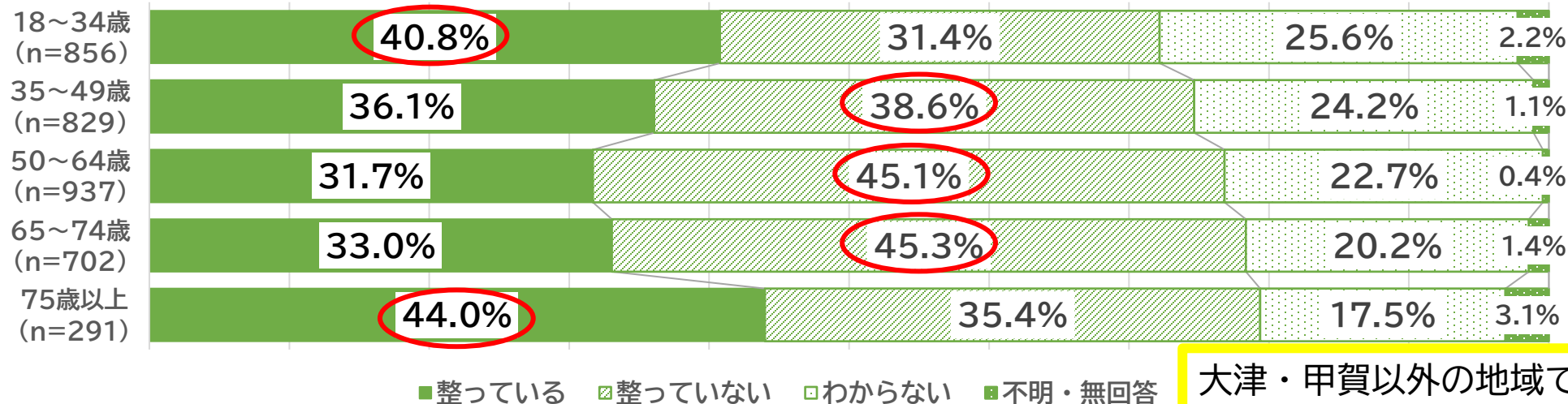
デジタル鑑賞をした理由別の割合(評価指標①関連)(年代別) ※複数回答可



2 文化芸術に取り組むことができる環境について

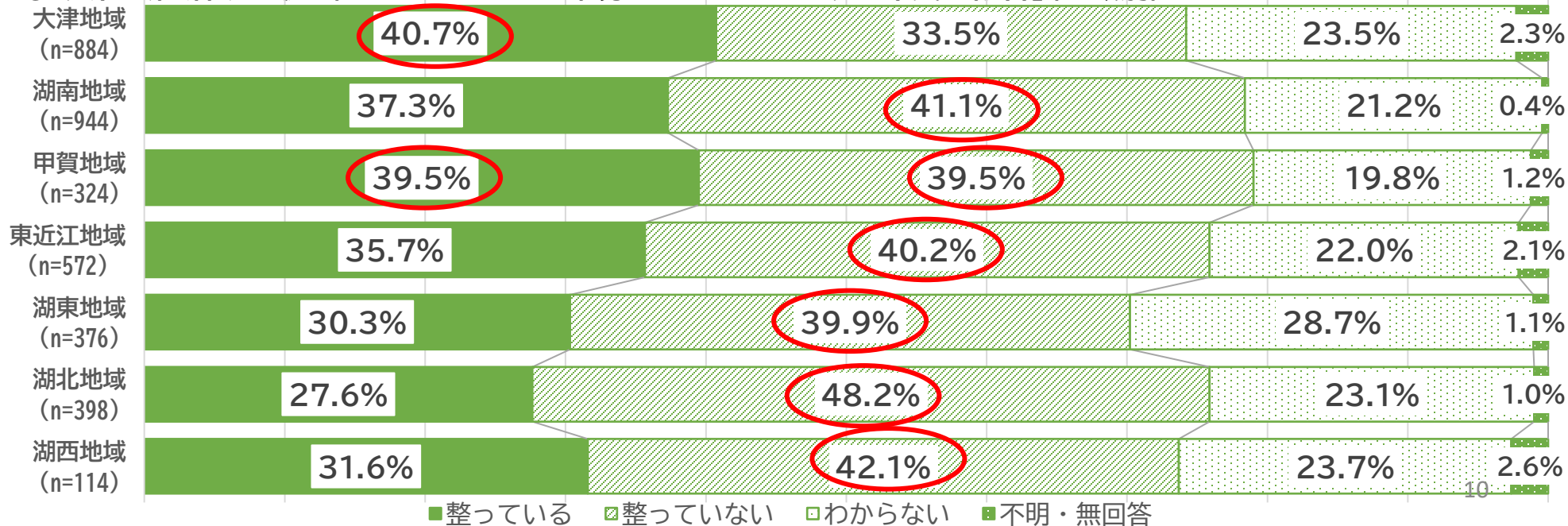
35～74歳で『整っていない』が最多

②「文化芸術活動に取り組むことができる環境が整っているとする県民の割合」(年代別)



大津・甲賀以外の地域で『整っていない』が最多

②「文化芸術活動に取り組むことができる環境が整っているとする県民の割合」(地域別)



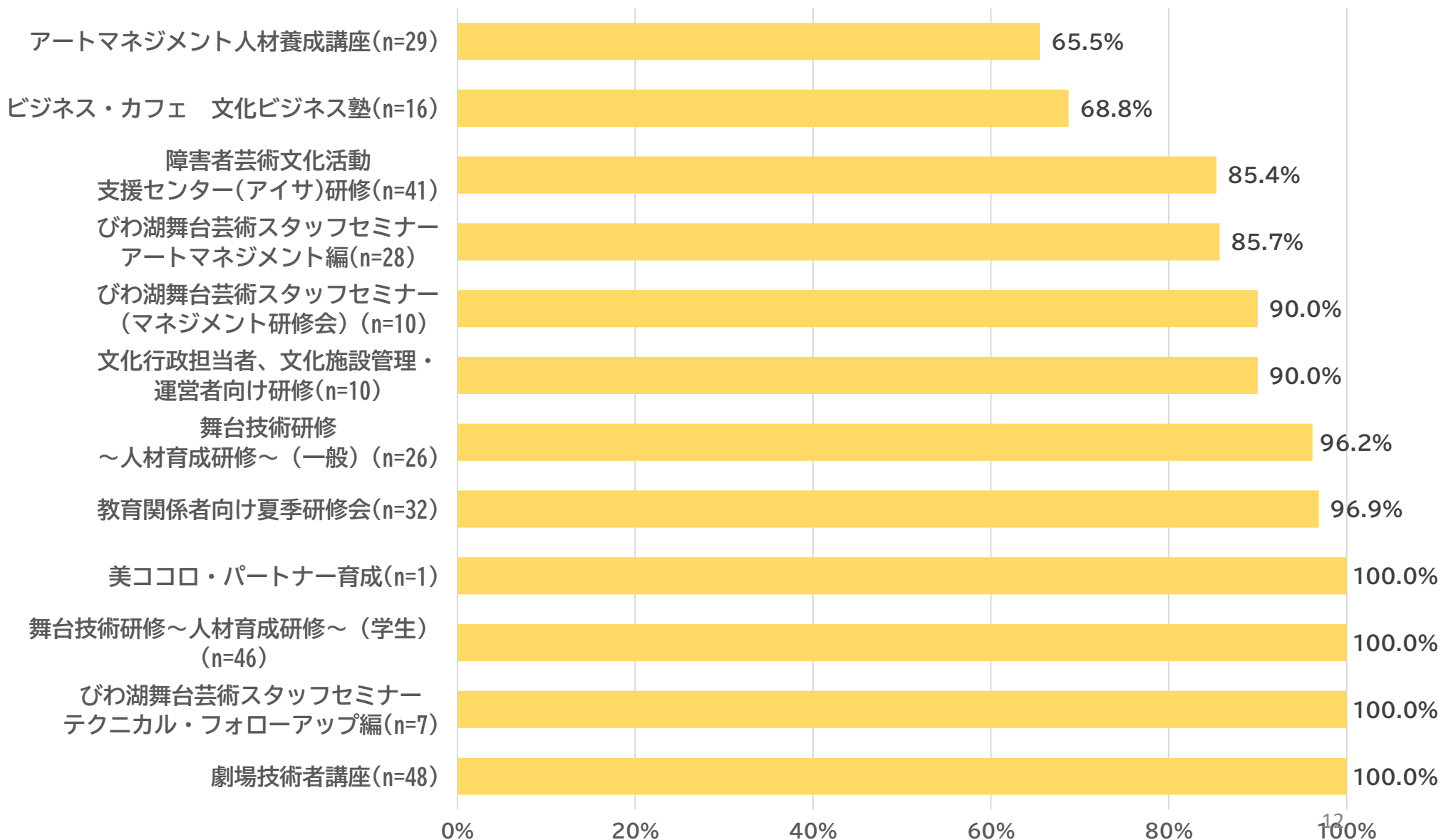
柱2 未来の文化の担い手の育成

- 1 研修受講の効果について
- 2 創作活動について

1 研修受講の効果について

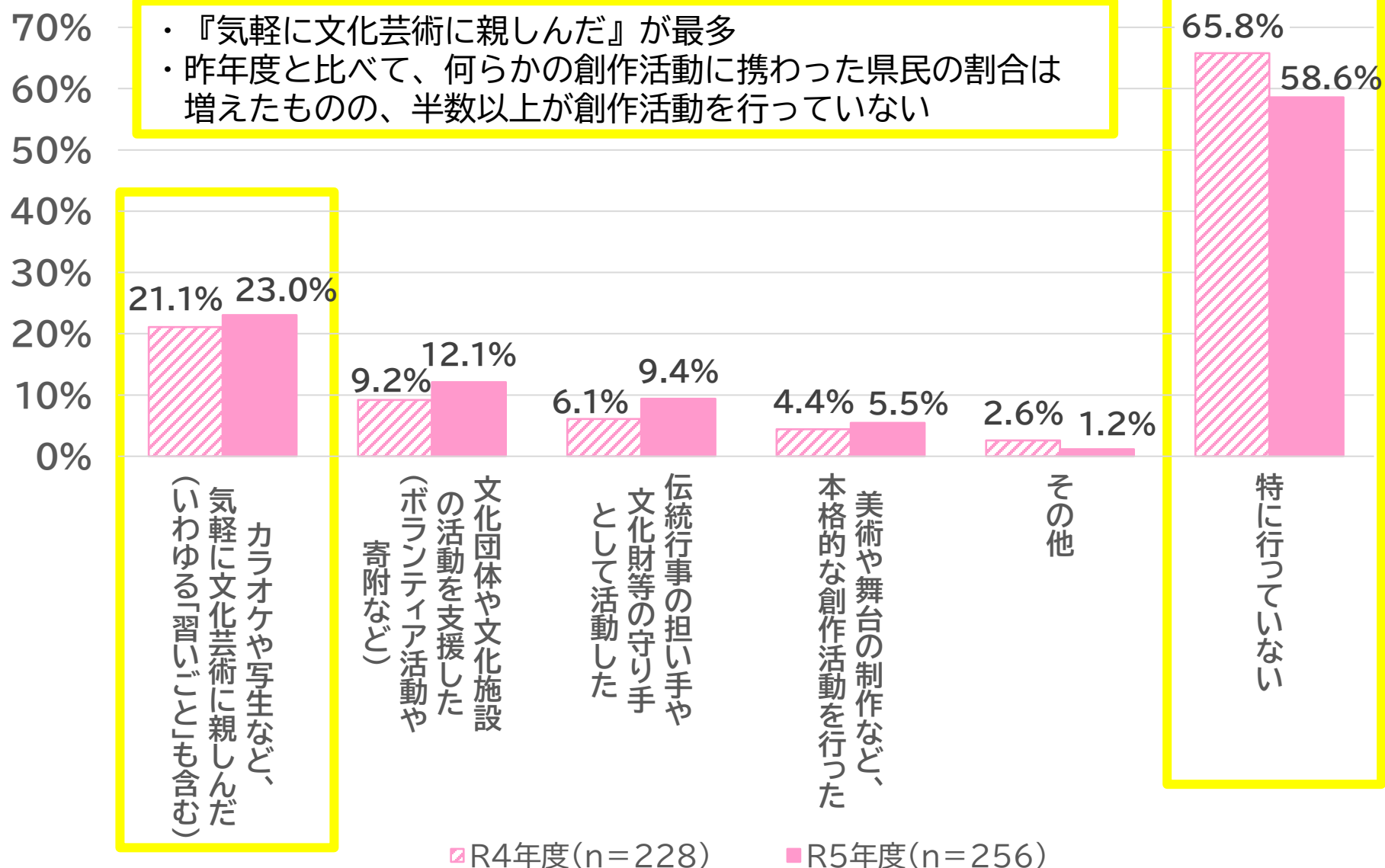
・ほとんどの研修で
目標値（80％）を達成

「⑥研修で得た知識や技術を今後の活動に活かせると回答した受講生の割合」(事業別)



2 創作活動について

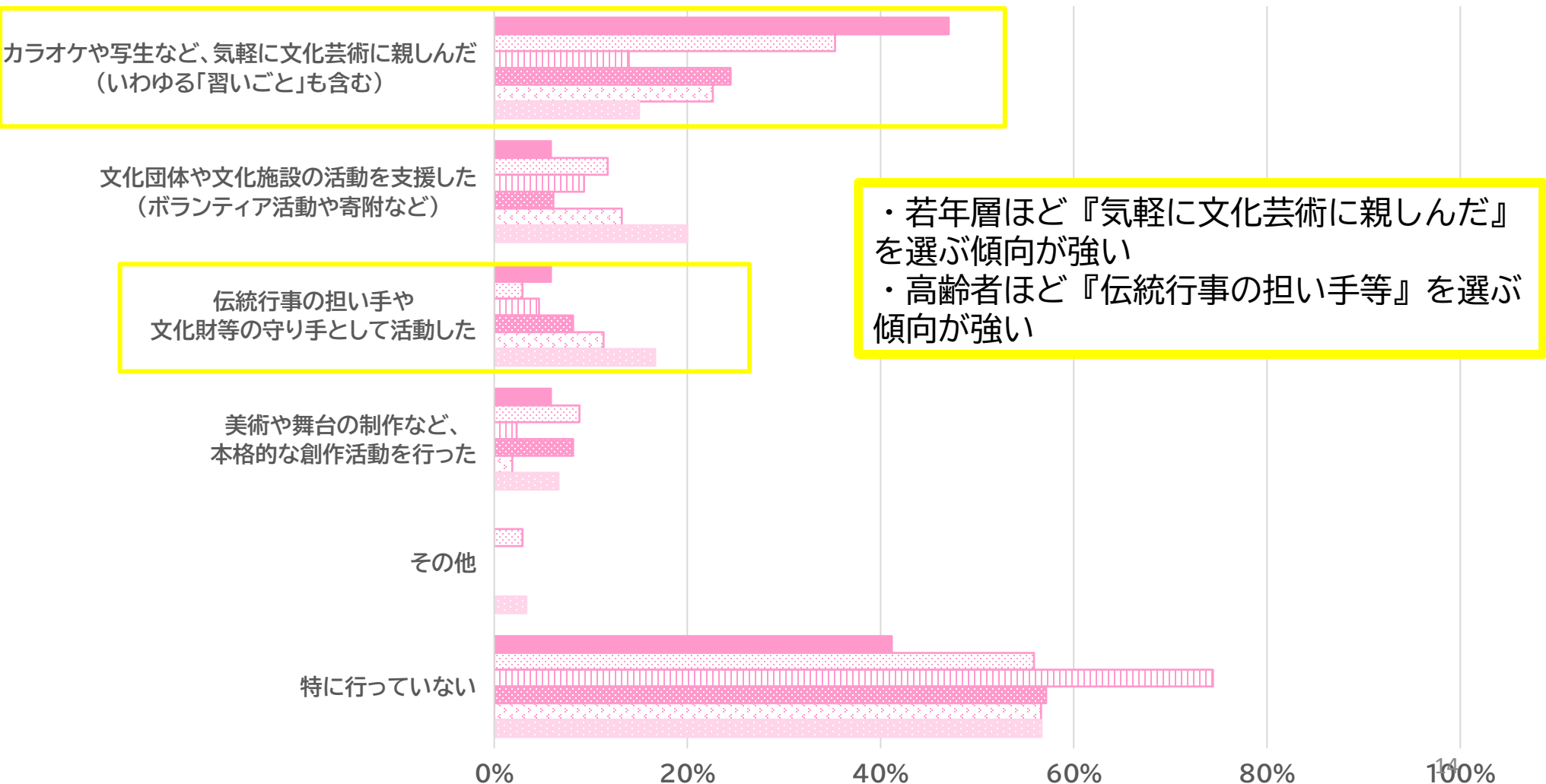
創作活動の内容別の割合(評価指標⑤関連)※複数回答可



2 創作活動について

創作活動別の内容別の割合(評価指標⑤関連)(年代別) ※複数回答可

■ ~20歳代 (n=17) ■ 30歳代 (n=34) ■ 40歳代 (n=43) ■ 50歳代 (n=49) ■ 60歳代 (n=53) ■ 70歳代~ (n=60)

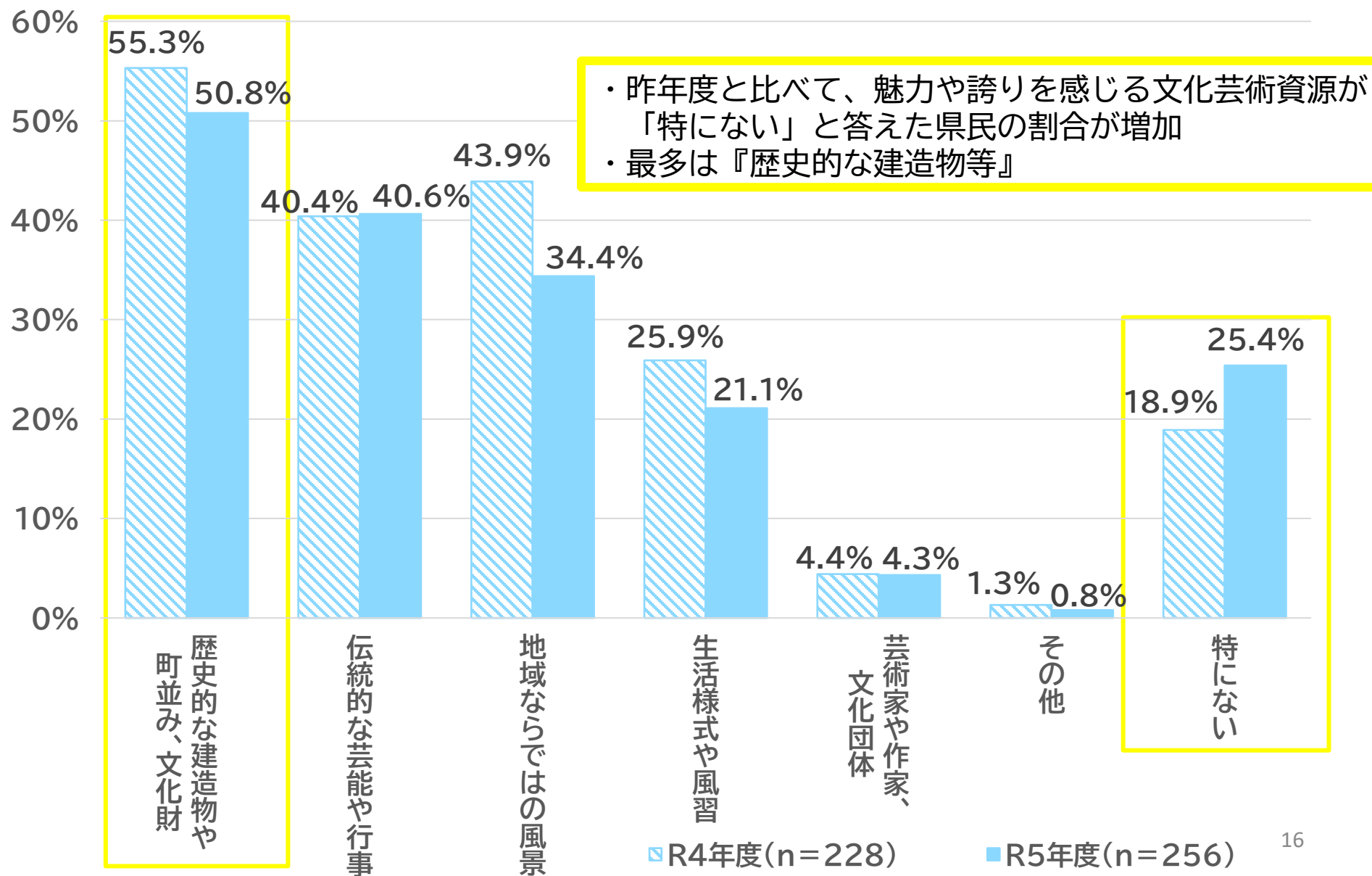


柱3 文化への関心・理解の向上

- 1 魅力や誇りを感じる文化芸術資源について
- 2 地域における文化芸術との連携分野について

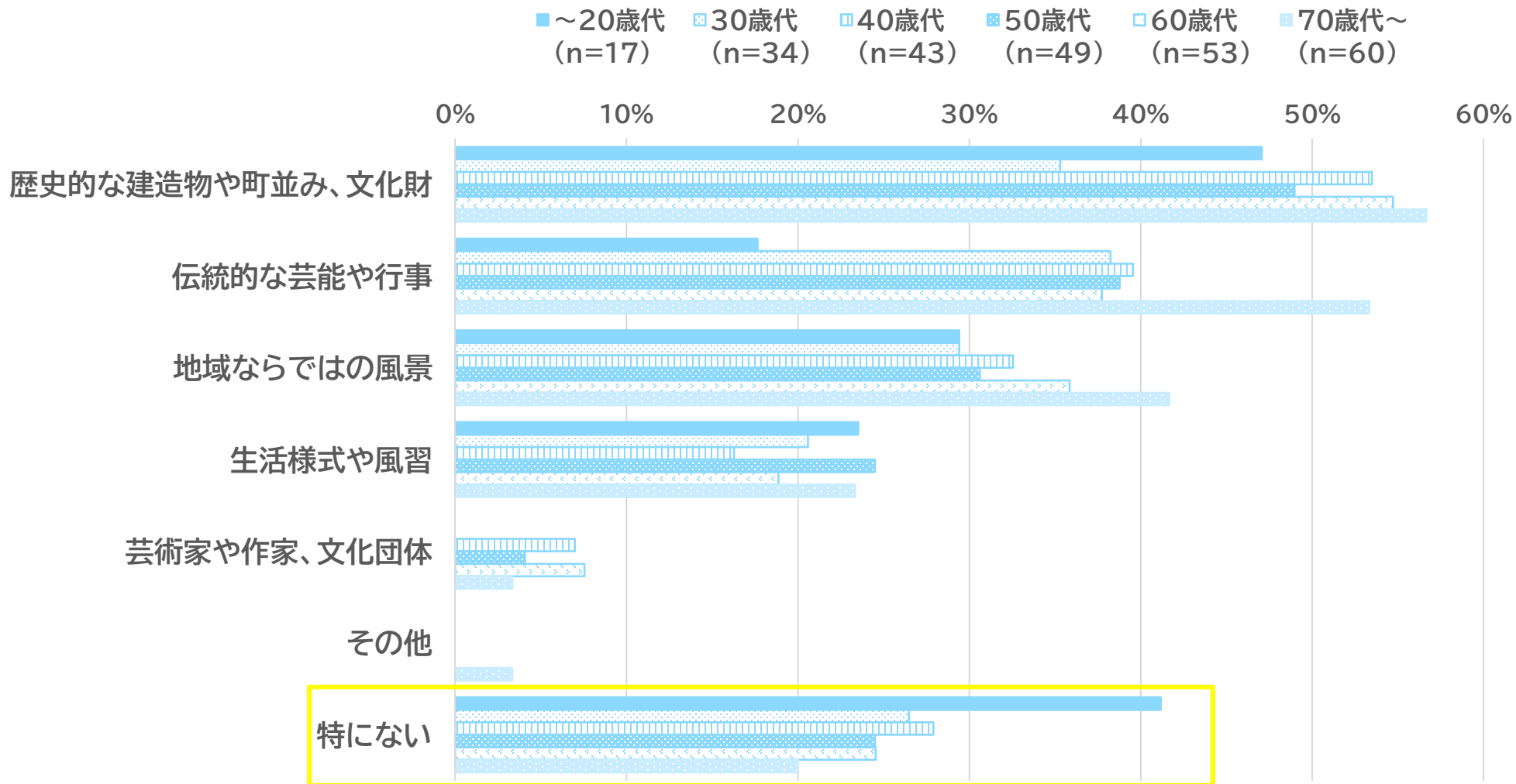
1 魅力や誇りを感じる文化芸術資源について

魅力や誇りを感じる文化芸術資源の内容別の県民の内訳(評価指標⑩関連)※複数回答可



1 魅力や誇りを感じる文化芸術資源について

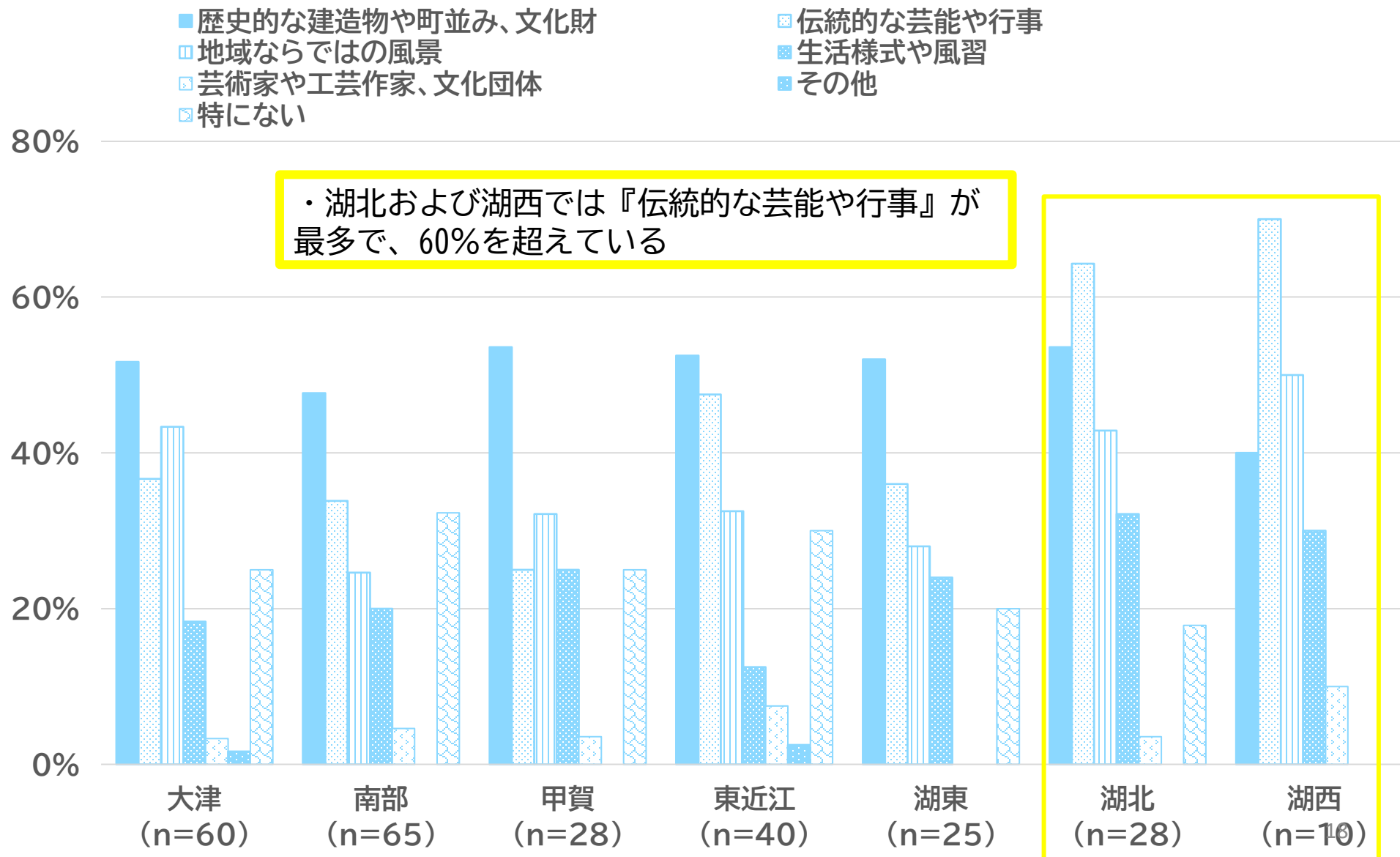
魅力や誇りを感じる文化芸術資源の内容別の県民の内訳(評価指標⑩関連)(年代別) ※複数回答可



・若年層ほど『特にない』の割合が高い

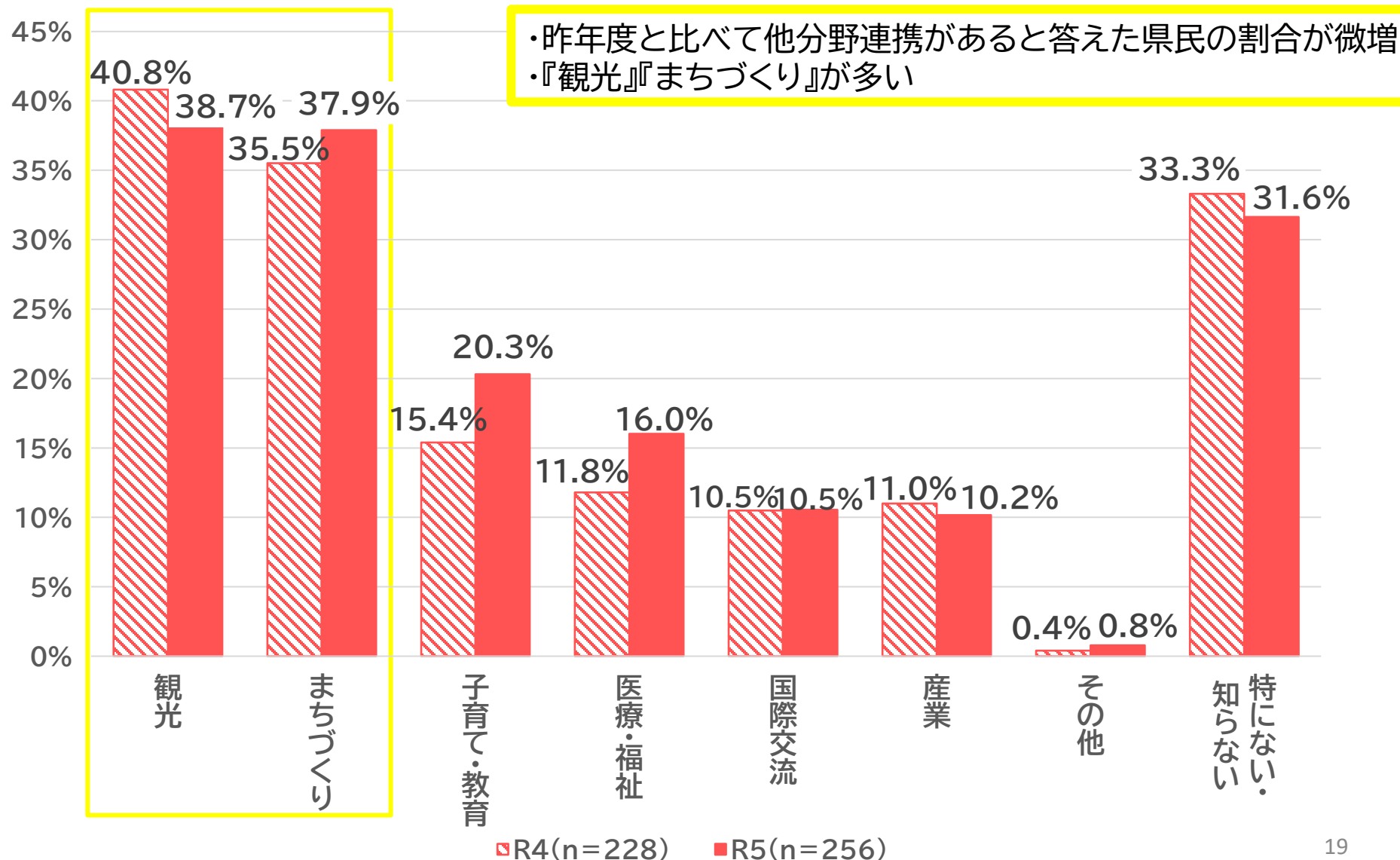
1 魅力や誇りを感じる文化芸術資源について

魅力や誇りを感じる文化芸術資源の内容別の県民の内訳(評価指標⑩関連)(地域別) ※複数回答可



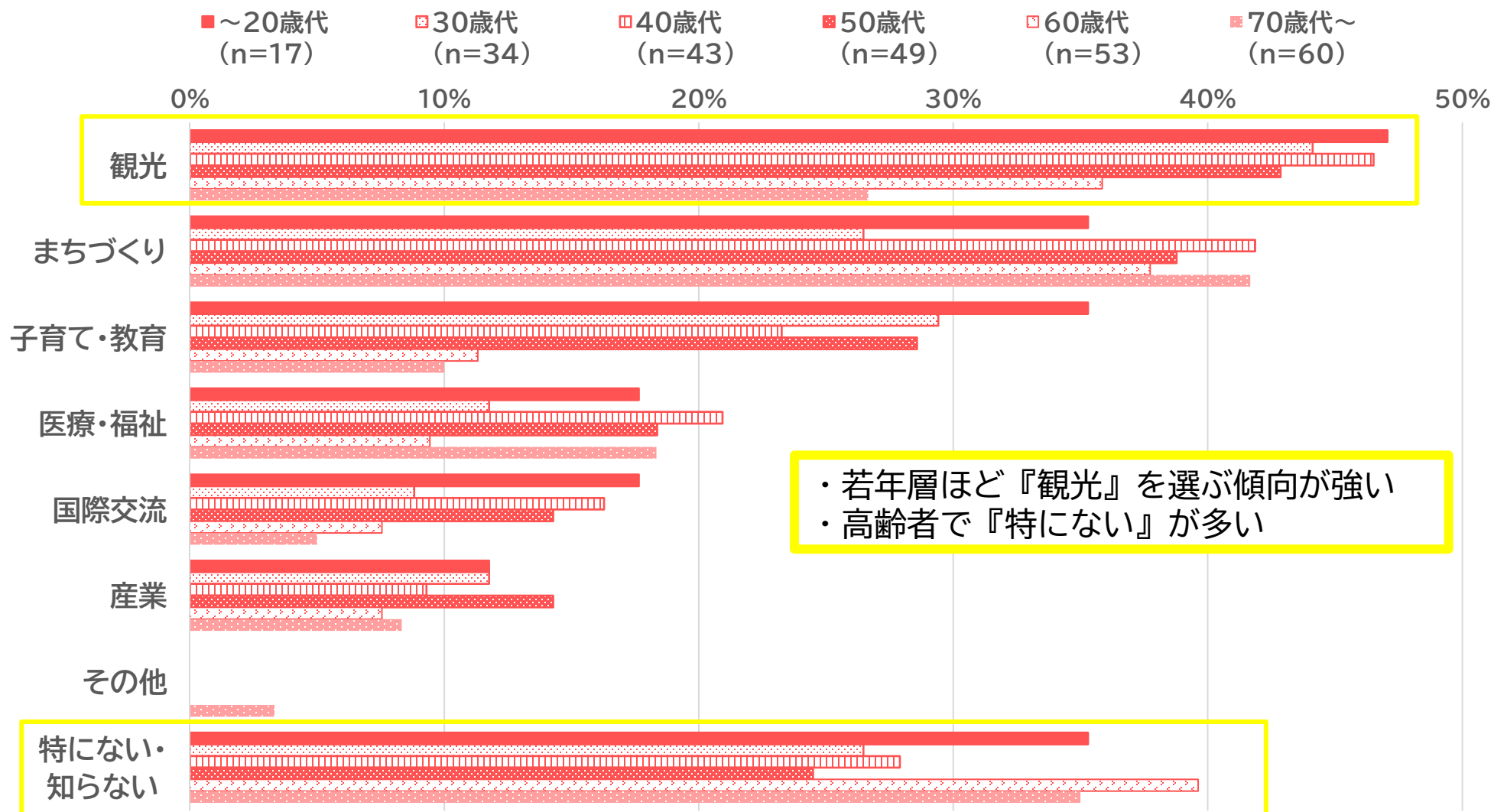
2 地域における文化芸術との連携分野について

地域において文化芸術と連携した分野別の県民の内訳(評価指標⑪関連)※複数回答可



2 地域における文化芸術との連携分野について

地域において文化芸術と連携した分野別の県民の内訳(評価指標⑪関連)(年代別) ※複数回答可



2 地域における文化芸術との連携分野について

地域において文化芸術と連携した分野別の県民の内訳(評価指標⑪関連)(地域別) ※複数回答可

■観光 ■まちづくり ■子育て・教育 ■医療・福祉 ■国際交流 ■産業 ■その他 ■特にない・…

・南部、湖北および湖西では『まちづくり』が最多で、過半数

